

令和2年度 活動報告

社会実装推進部門

1. はじめに

社会実装推進部門では、国・地方自治体等、学外の組織や個人と連携し、シンポジウムやワークショップ等の開催を通じて、防災減災策の検討、防災啓発活動等に取り組んだ。また、防災に関する外部からの問い合わせや相談に応じた。以下は主な活動の報告である。

2. シンポジウム等の開催

(1) 今村明恒誕生 150 周年記念講演会

令和2年12月6日、今村明恒誕生150周年記念講演会「地震学の先駆者今村明恒と鹿児島の防災」を開催した。今村明恒（あきつね）は、鹿児島市出身で大正から昭和にかけて活躍した地震学の先駆者である。この講演会は、今村明恒の功績と、その功績が地域防災に役立っていることを、地元の人に知ってもらうことを目的として開催された。

当初は鹿児島大学稲盛会館での開催を目指して準備していたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況が悪化したため、オンラインに切り替えた。結果として、鹿児島の地元市民に加え全国からも多くの参加があり、約120人の参加者となった。

世話人の小林励司准教授による開会の挨拶のあと、まず名古屋大学の武村雅之特任教授による特別講演「今村明恒と日本の地震学―震災予防―を終生つらぬいた地震学者」で、今村明恒の功績が詳しく紹介された。この講演により、今村明恒が副題にあるような「震災予防」を目指していたことが、参加者によく理解されたと考えられる。次に鹿児島大学の井村隆介准教授による講演「過去の噴火に学んで備える―桜島火山の歴史時代の噴火」があり、桜島の噴火について過去の史資料から得られる教訓を伝えた。また、鹿児島大学の小林励司准教授による講演「1914年桜島大正噴火で発生した大地震」があり、今村明恒の功績をはじめ過去の記録が現在の防災研究につながることを示された。講演終了後、参加者から多くの質問があり、活発な意見交換が行われた。最後に、寺本行芳地震火山地域防災センター研究推進部門長の閉会挨拶で締めくくられた。

(2) 防災・日本再生シンポジウム

「大規模火山噴火時の災害医療に挑む―新たな取り組みと研究」

令和2年12月12日、鹿児島大学において、令和2年度防災・日本再生シンポジウム「大規模火山噴火時の災害医療に挑む―新たな取り組みと研究―」（主催 地震火山地域防災センター、共催 一般社団法人 国立大学協会）が開催され、自治体・防災機関の関係者、一般市民、学生、教員など、100名が参加した。

今回のシンポジウムは、コロナ禍の状況からオンライン開催とし、YouTubeライブ配信で行った。防災教育推進部門長の松成裕子 医歯学域医学系教授の総合司会により、プログラムは進行した。冒頭、佐野輝 学長から主催者として開会挨拶があった。

まず最初に、小林哲夫 鹿児島大学名誉教授から「桜島火山噴火の歴史からみる学際的研究への期待」の特別講演があった。これまでの歴史的噴火のデータを分析することで、新たな知見を産み、予測につながることを研究成果などが報告された。

次いで、中谷剛 特任研究員から、「桜島噴火による降灰予測とGISを融合し、災害リスクの可視化に挑む」と題して、開発された手法を異分野において展開することで可能性が拡大することについての講演がなされた。

吉原秀明 鹿児島市立病院救命救急センター長からは、「桜島大噴火災害における病院避難計画の最適化と限界」と題する講演があり、火山災害における医療についての課題が明らかされ、火

山防災への提言がなされた。講演の中では、他の専門領域の研究と重ね合わせることで、これまで可視化できなかったことが3次元でデータ化できることへの期待などが報告された。

さらに、高間辰雄 鹿児島県立大島病院救命救急センター長からは、「子どもの未来をつなぐー火山版 HUG による防災リテラシーの取り組みー」と題する講演があり、鹿児島の未来につながるために古来の郷中教育法を活かした子ども達への伝承方法が提案された。

続いて、垣花泰之 鹿児島大学病院救命救急センター長を座長として総合討論が実施された。講演者4名からは、互いの発表内容について討論と補足説明が行われ、参加者から寄せられた質問に対する回答など、活発な意見交換が行われた。

最後に、岩井久 企画・社会連携担当理事が、このシンポジウムの成果として、これまでの専門分野の研究を深化させるだけでなく、今後は発展した技術・手法を使い、また古きことを新たな視点で融合することで、新たな研究上の発見や新たな開発に繋がっていくことへの期待を述べた。さらに、地震火山地域防災センターは、各分野の研究をはじめ防災に関する様々な調査や観測、防災教育を行っていくとともに、引き続き地域防災に関する様々な課題に対して地域と連携して取り組むことで、地域防災力の向上により一層貢献する、との意志表明があり、シンポジウムを締めくくった。



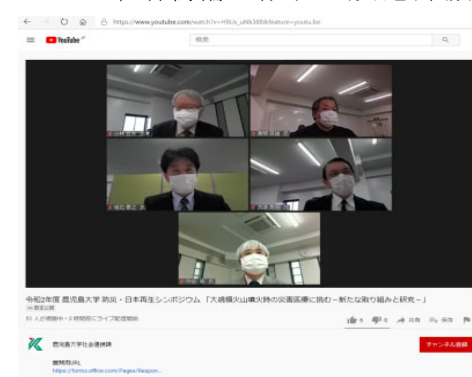
講演の様子（実施会場風景）



総合討論の様子（実施会場風景）



講演の様子（YouTube 配信映像）



総合討論の様子（YouTube 配信映像）

(3) 放射線に関する防災ワークショップ・研修会

防災ワークショップの開催

令和2年12月5日、環境省と鹿児島大学地震火山地域防災センター共催により、防災ワークショップをオンラインにて開催した。公益財団法人 原子力安全研究協会 放射線災害医療研究所 山本尚幸 所長、同研究所 山口拓允 研究員から、「放射線の健康影響についてもう一度振り返る」、「原子力災害と防御対応について」と題する講演があった。福島原発事故から10年近く経過した現在、原発事故についてももう一度振り返ることで、放射線の健康影響についての整理

と、もし原子力災害が起こったとしたらどのように対応すべきかの防護対応について、わかりやすい解説がなされた。オンライン開催ではあったが、鹿児島県、鹿児島市、薩摩川内市の原子力防災関係者の職員に加え、鹿児島市の自治会長にも参加いただき、大変意義深い防災ワークショップになった。鹿児島県の原子力防災対策は年々精練されているが、地震火山地域防災センターもますます地域の関係自治体と連携し、発展・充実に貢献していくことが確認された。

放射線に関する研修会の開催

令和3年1月23日に、環境省と鹿児島県診療放射線技師会、鹿児島大学地震火山地域防災センターとの共催により、放射線に関する研修会をオンラインにて開催した。長崎大学病院の奥野浩二先生から「福島原子力発電所事故について」と題して、原発事故に関する振り返りと原子力災害時の診療放射線技師の役割についての説明があった。また、長崎大学病院 岩竹聡先生から、「原子力災害時の放射線による健康影響について」と題して、特に心理的な影響について新たな情報の解説があった。当日は、オンライン開催ではあったが、薩摩川内市、鹿児島市の医療施設の診療放射線技師の方々をはじめ、鹿児島医療技術専門学校の診療放射線技術学科の学生にもご参加いただき、40名の参加者となった。この研修会も年々と充実することができ、本センターとして、今後も地域の関係者、関連職能団体と連携し、原子力防災の発展、充実に貢献していくことが確認された。

保健師の方を対象とした放射線に関する研修会の開催

令和3年1月24日に、環境省と鹿児島大学地震火山地域防災センターとの共催により、オンラインにて研修会を開催した。長崎大学の吉田浩二先生から、「保健活動に必要な放射線の基礎知識について 一原子力災害後の自身の経験から」と題する講演があった。その中で、3.11の原発事故直後から福島県へ赴き、救助活動したこと、福島県立医科大学での教育活動について経験などが語られ、原子力災害時に保健師に求められる放射線の知識について説明がなされた。次いで公益財団法人原子力安全研究協会の山口拓允先生から、「リスクコミュニケーションとは 一いかにしてナラティブとサイエンスをつなぐか」と題する講演があり、環境省での放射線リスクコミュニケーションに関わる活動の説明と、参加者の活動につなげられるような事例が示された。さらに長崎大学の山田裕美子先生からは、福島県富岡町での住民の放射線不安に向き合い寄り添った保健師活動を導入として披露していただき、参加者とともに提示の事例ケースへの関り方を議論した。参加者は6名で、実りのある明日への活動につなげられる研修会であったが、それだけに、より多くの対象の保健師の方々にも参加して欲しかったとの思いが残るものの、今もこの瞬間にもコロナ禍で懸命に活動していることを考えると、来年は研修の時間が得られるよう祈るばかりである。

3. 地域との連携による事業の実施

奄美市役所が実施した「奄美防災シンポジウム」に対する協力

平成22年10月の奄美豪雨災害から10周年の節目を迎えた令和2年10月20日から、奄美市役所は市内5カ所で防災講演会と奄美豪雨災害パネル展を実施した。これに対して地震火山地域防災センターは、防災講演会を遠隔の防災講話として提供するとともに、パネル展に対して災害写真の提供を行った。

当初計画されていた防災講演会は、コロナの影響を考慮し撮影された講演動画を遠隔の防災講話として、奄美市の小中学校における防災教育や地域の防災講話の中で提供されることになった。地頭菌隆センター長による「最近の大規模災害から地域防災を考える」、浅野敏之特任教授による「避難と避難行動 一奄美豪雨災害から10年」と題する講演動画が、奄美市のホームページ上に公開され、パネル展会場や奄美ケーブルテレビでも放映された。防災パネル展は、名瀬地区3カ所、住用地区、笠利地区各1カ所の計5カ所で、10月20日から11月1日まで開催されたが、本センターはパネル展に対しても、災害写真の提供に協力した。

基調講演放映状況



名瀬総合支所、AiAiひろば、

奄美市内すべての小中学校に、防災教育の教材として活用できる
ように、基調講演、写真データを提供済み
また、ローカルTV（あまみTV）にも、提供済み（10月20日）

パネル展の状況



名瀬総合支所



奄美文化センター



マングローブパーク



AiAiひろば

4. 外部からの問い合わせや相談、訪問への対応

鹿児島市内の高等学校から、桜島大正噴火の際の住民の避難行動やその当時の住民の防災意識に関する取材・質問があった。また他県の科学館の職員から、当地の中学生の理科教育に桜島の活動や溶岩・火山灰のサンプルの入手方法について問い合わせがあった。これら2件については、本センター特任教員が対応した。地元放送局から最近の災害にかかわる時事問題について問い合わせがあり、対応する専門分野の兼務教員が担当した。